

令和5年度 泉が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤に，個性豊かで情操に富んだ人間として，平和で民主的な社会の発展に貢献する生徒を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ・ 情操や感性が豊かで個性のある生徒
- ・ 自主的に学び創造性に富む生徒
- ・ 心身ともに健康で実践力のある生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（1）あいさつができ，いじめのない，居がいのある学校を目指す。

（2）自主性を尊重し，生徒や教職員の良さが十分に活かされる学校を目指す。

（3）保護者や地域から信頼される，開かれた学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）○体力の向上を図り，主体的に行動できる能力・態度の育成に努める。

（2）○心豊かな人間性の育成に努める。【重点】

（3） 確かな学力の定着を図り，学習意欲を高める授業の確立に努める。

（4） 小中一貫教育と地域学校園の取組の円滑な推進に努める。

（5） 持続可能な社会を目指しE S Dを推進する。【重点】

（6） 働き甲斐のある職場づくりの推進に努める。【重点】

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり，進んで学び合う児童生徒の育成

～ 学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉 ～

4 教育課程編成の方針

（1）「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「令和5年度指導の重点」を踏まえ，本校教育目標が達成できるよう全職員の理解と協力によって編成する。

（2）新中学校学習指導要領改訂のポイントである「社会に開かれた教育課程」「これからの時代に求められる資質・能力」「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学び」を踏まえる。

さらに，教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るため，教育課程全体において，教科横断的な視点からの指導のねらいの具体化や，教科等間の指導の関連付けなどを推進する。

（3）「G I G Aスクール構想」推進に向けて1人1台端末の本格的な活用を積極的に進めていく。

（4）生徒の調和のとれた育成を目指し，学校の実態及び生徒の心身の発達段階を十分に考慮する。

（5）宇都宮市の小中一貫教育の趣旨を生かし，泉が丘地域学校園内の小学校と連携しながら，創意工夫を生かした特色ある教育，特色ある学校づくりを進めるような編成を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ・専門職としての自覚を高め、常に組織的な対応に努める。 ・子どもと向き合う時間を確保するために、校務の工夫改善及びスリム化を図る。 ・教職員の時間管理を徹底し、勤務時間を意識した働き方を推進する。
(2) 学習指導 ○基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力や、自分で考え判断し、表現する力を育成するとともに、目標を持ち、自ら学ぶ意欲を育む。 ・総合的な学習の時間などで、E S Dの理念を生かした学習活動を取り入れる。
(3) 児童生徒指導 ○心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する。 ・不登校、いじめの未然防止を図るため教育相談を充実させるとともに、不登校の解消を図るため生徒個々の状況にあわせて柔軟に対応する。
(4) 健康（保健安全・食育）・体力 ○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。 ・自己の体力の現状を具体的に把握させ、積極的に自己の体力を伸ばしていこうとする態度を育てる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒が自分の思いや考えを自由に言える雰囲気づくりを行い、思考力・判断力・表現力を育む。 ・タブレット端末や学校図書館を利用した情報収集の機会を増やしたり、グループ学習の機会を増やし「意見を出し合い、共に考え合える」場を設定することで主体的な学習態度を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は90.1%で、数値目標をわずかに上回った。 【次年度の方針】 ・各教科の授業の中で、タブレット端末の活用機会やグループ学習の場を意図的に設定し、主体的な学習態度を育成する。 ・生徒が自分の意見を自由に発表できる雰囲気づくりを重点的に実践する。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学校行事等との関連を図った別の教科道徳の授業を実施し、人権を尊重する心や思いやりの心を育てる。 ・人権教育や福祉教育の充実を図り、障がいをもった方や高齢者への理解と共生への意識を高める。 ・<u>「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力を重視し、常に感謝の気持ちを持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。</u>	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は94.1%で、数値目標を4.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ○相手の気持ちを考え、共感できる力を身に付けさせるとともに、常に感謝の気持ちが持てるように、全ての学校教育活動に関連付けて実践する。

	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・「キャリア・パスポート」の効果的な活用方法について、地域学校園内の小学校との連携を図り、中学校卒業後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるよう創意工夫を活かした形で整備を進める。 ・学習や部活動、学校行事等に目標をもって取り組ませ、振り返りを行い次に生かせるようにする。 ・目標に向けて努力することの素晴らしさを、全教育活動の中で伝え、目標達成に向け努力する生徒を認める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は 85.6%で数値目標を 4.4 ポイント下回った。また、昨年度を 0.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの効果的な活用方法について、各部会で検討する。 ○目標に向けて、努力している過程を褒める機会を増やすことで、より大きな達成感と満足感を得ることができるよう支援する。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・学級活動、給食指導等で、栄養バランスが大切であることを理解させ、地域学校園お弁当の日の指導を通して、実践化を図る。 ・小中一貫の検定や保健体育の授業を通して、運動に対する意識を高めていく。 ・熱中症や光化学スモッグ注意報をはじめとする各種の情報をもとに的確に判断し行動するようにする。 ・生徒会専門員会（保健委員会、給食委員会、安全委員会、体育委員会）活動の更なる活性化を図り、生徒の健康や安全に対する意識を高める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、91.0%で、数値目標を 1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育むための基礎を培う。 ・生徒会専門委員会の活動を充実させる。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒がきまりやマナーを守って学校生活を送り、学校行事・生徒会行事・各種委員会等において、活躍する姿を称賛し、内外に知らせていくことで、生徒一人一人に自信を持たせ、より積極的な活動を促していく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、90.5%で、数値目標をわずかに上回った。 【次年度の方針】 ○学校行事や委員会活動で、活躍する姿や努力している過程を褒める機会を増やすことで、生徒一人一人に自信を持たせられるように支援する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・恥ずかしがらないで、まず声に出していけるように、非言語コミュニケーションを英語の授業以外でも積極的に取り入れる。 ・教科書の言語材料を活用し、リスニングやスピーキングの練習を丁寧に行い、さまざまな音調に慣れさせる。 ・学校生活や修学旅行で、積極的に英語で話しかけることができる態度を育成する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、78.2%で、数値目標を 11.8 ポイントも下回った。 【次年度の方針】 ・コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした授業を展開し、英語を即興で話す場面や教師と生徒、生徒同士のやり取りがある場面設定を工夫して、段階的に指導する。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・社会科や理科、総合的な学習の中で宇都宮市の地域教材を扱うことで、地域への理解を深める。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加させることにより、地域や宇都宮の良さに触れさせる。 ・大谷石文化が日本遺産の認定を受けたことや多くの〇〇の街宇都宮に触れさせることで、宇都宮の良さに気づかせる機会を増やせるように、図書だよりでの紹介や学校内外の環境整備を進める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、81.1%で、数値目標を 1.1 ポイント上回った。また、昨年度を 0.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域の自然と文化的な魅力の発見や認識、地域住民との関わり等を通して、宇都宮の魅力と良さに気付かせる機会を増やせるようにする。 ・地区コミュニティセンターと連携しながら、各種ボランティア活動への参加を通して、地域社会の一員であること自覚や自己有用感を高めさせる。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・総合的な学習や各教科の授業で、インターネットやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを活用して、学習を進める機会を増やす。 ・<u>学校図書館を調べ学習のベースとして活用できるように、教育課程と関連付けて図書の準備を行う。</u>	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、77.1%で、数値目標を2.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・各教科で積極的にICT機器を活用した授業を展開するとともに、臨時の学年・学校休業においても、臨機応変に対応できる体制を構築する。 ・授業のみならず、生徒会活動や学校行事等、教育活動における様々な場面での図書館活用を推進する。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上	・「持続可能な開発目標」とは具体的にどのようなものなのか、SDGsの「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」の理解を深める。 ・生徒会の各専門委員会の活動の中で、持続可能な社会実現のためにできることを考え行動に移させる。 ・社会科や理科、技術・家庭の授業において、エネルギーやリサイクル等についての理解を深める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、79.7ポイントで、数値目標を0.3ポイントとわずかに下回った。 【次年度の方針】 ○総合的な学習の時間を中心にESDの理念を生かした学習活動を取り入れ、世の中の課題と向き合いながら、日常生活の中で自分たちにできることを考え、実践できるようにする。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・<u>特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。</u> ・特別支援学級の生徒はもとより、通常の学級の生徒の実態もより丁寧に把握し、個々のニーズや実情に合った支援計画を作成して、保護者等と合意形成を図りながら、個別の支援が必要な生徒への合理的な配慮を行う。 ・個々に必要な支援を的確に捉え、かがやきルームや日本語教室の適正な運用を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合が、83.3%で、数値目標を3.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学級の実態や生徒の障がいの程度をより丁寧に把握するとともに、個々のニーズや実情に合った教育課程を検討・編制し、保護者と合意形成を図りながら対応を進めていく。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・「いじめアンケート」や教育相談の実施、スタンダードダイアリーの活用等、いじめ防止対策についての取組を継続し、会議等での情報交換により、いじめの早期発見に努める。 ・「いじめゼロ強調月間」や日常において、いじめの未然防止を行うとともに「いじめアンケート」を実施し、必要に応じて適切な指導・助言を行い、自己肯定感、他者信頼感を育てる。 ・学校の取組や生徒の思い等を、積極的に情報発信していくとともに、学校行事や生徒会活動等と関連づけて理解を深めてもらえるようにする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合が、昨年度を0.1ポイント上回る95.5%、保護者の肯定的回答の割合が、昨年度を3.5ポイント上回る80.1%で、生徒・保護者共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・いじめアンケートや教育相談の実施、宮っ子ダイアリーの活用等、いじめ防止対策についての取組を継続するとともに、教職員間で頻繁に情報交換を行い、いじめの早期発見や組織的対応に努める。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上	・生徒が自己肯定感をもって、居がいのある学級づくりを目指し、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、生徒指導主事を中心に、特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・教育相談、各種アンケート、Q U 調査を活用し、不適応傾向のある生徒の早期発見と早期対応に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が、91.0%で、数値目標を 10.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日頃から共感的な人間関係づくりに努めながら、自己有用感を味わわせるとともに、学校全体で課題を共有して、協働で問題解決にあたる。
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・生徒が自己肯定感をもって、居がいのある学級づくりを目指し、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。 ・外国人生徒への共通理解を図り、必要なニーズに応じた支援を、全校体制で行えるようにする。特に、進路指導については、外部との連携を深める。	A 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が、88.1%、地域住民の肯定的回答の割合が 100.0%で、いずれも数値目標を大幅に上回った。 【次年度の方針】 ○学校行事や生徒会活動において、ICT 機器を有効に活用することで、生徒がいいきと活動できる取組を推進する。 ・生徒が主体的に活動できる場面を意図的に設定し、より達成感を得られるようにする。
3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・一人一授業における振り返りを大切にし、教員の更なる授業力向上に努めるとともに、タブレット等の ICT を効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図るとともに、ねらいの提示と振り返る活動により、生徒一人一人が主体的に取り組める授業づくりを進める。 ・教科・学年・クラスの実態に応じて、習熟度別学習や T・T を適宜取り入れた授業を行い、個に応じた指導に当たる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合が、91.9%で、数値目標を 1.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ねらいを明確にした一人一授業公開を実施することにより、教員の授業力向上を図るための実践を推進する。 ・ICT機器の活用を通して、生徒が積極的に自分の考えを表現したり、意見を交換したりすることで、思考力や表現力を高めて学力の向上を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・SC, MS, ALT 等をとの連携・協力を図り、教職員の業務改善を図るために学校の教育活動において有効に活用する。 ・週1回及び月1回の学校リフレッシュデーを継続することにより、教職員の学校業務に対する意識を変えていく。 ・校務分掌や学年の枠を超えて、今必要な仕事は何かを考え、協力できるような学校風土づくりを行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合が、昨年度よりも 4.4 ポイント下回る 75.0%で、数値目標を 5.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ○教職員間の信頼関係をより一層深め、教職員が一丸となって、生徒のより良い成長を目指して教育にあたることのできる学校風土づくりに取り組む。
4- (3) 学校における 働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・出退勤管理により、一人一人が勤務時間を意識し、校務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ・校務分掌のデータの再整理を行い、全職員がポータルサイトからすぐに活用し、校務を効率的に処理できるシステム構築を進める。 ・学習情報システムをはじめとした、学校に導入されているシステムの効果的な活用を進める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合が、72.2%で、数値目標を 7.8 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ○教職員一人一人の意識をより一層高めるとともに、校務分掌を整理するなど効果的に事務処理ができるシステムの構築に努める。 ・ミラ임による出退勤時間の入力を実践に行い、勤務時間を意識できる体制を整える。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上	・越戸川せせらぎ通りや駅東公園清掃美化活動の充実をはかるために、継続して小学校との連携を図っていく。 ・事務・図書館司書・養護教諭を中心に、地域学校園相互の支援体制を充実させる。 ・乗り入れ授業において、小学校との連絡、調整を密にして、学習指導や生徒指導に関する各部会の活動の活性化を推進する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が、昨年度を 0.7 ポイント上回る 84.4%だったが、数値目標を 5.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ○小学校と連携しながら、越戸川せせらぎ通りや駅東公園の清掃美化活動の継続と活動内容の充実を図る。 ○乗り入れ授業において、小学校との連絡や調整を密にし、各部会の活動の活性化を推進する。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 90%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・家庭や地域社会との連携を図り、各種のボランティア活動に積極的に参加させる。 ・地域コーディネーターやコミュニティーセンターとの連携を図り、学校支援ボランティアや地域人材を活用した諸活動を推進する。 ・学校だよりや地域協議会だよりで、学校の取組や生徒の様子などを発信する。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合が、昨年度を 3.1 ポイント上回る 87.2%で、数値目標を 2.8 ポイント下回った。地域住民の肯定的回答の割合が 92.3%で、数値目標を 12.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域の行事において、生徒が積極的にボランティア活動に参加することを継続して推進していく。 ・生徒の活動の様子を発信し、学校の取組を知ってもらう機会を増やしていく。
5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進				
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 地域住民肯定的回答 80%以上	・定期的な安全点検のみならず、日々の教育活動の中で、教職員・生徒・施設利用者それぞれが気づいた点を共有し、改善していけるようにする。 ・防火・防災計画、危機管理マニュアルに基づき、不測の事態に対しても随時対応できるようにする。 ・友遊クラブとの密な連携を図り、学校開放を円滑に進めることができるようにする。	B	【達成状況】 ・地域住民の肯定的回答の割合が、100.0%で、数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・定期点検の結果や日々の教育活動の中で教職員・生徒・施設利用者が気付いた情報を共有し、不備がある場合には素早く対処して改善する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%以上	・WIFI 環境の有効活用やタブレットの利用方法等について研修を進め、各教科の授業や総合的な学習に、積極的に ICT 機器を活用した授業を展開する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合が 86.1%で、数値目標を 3.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・ICT機器を有効活用するために、管理を徹底しながら生徒が活用しやすい環境づくりを促進する。 ・ICT支援員の支援を円滑に受けられる体制を構築する。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・生徒会を中心としてあいさつ運動や、地域学校園の小中合同あいさつ運動の取組を発展させ、あいさつの習慣化を図る。 ・教職員から率先してあいさつを行うことで、生徒のあいさつへの意識を高める。 ・登下校指導を通して、地域や小学校との結びつきを強め、地域全体であいさつができる雰囲気作りを行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、95.7%で数値目標を 5.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員から率先してあいさつを行うとともに、生徒会を中心としたあいさつ運動や小中合同あいさつ運動の取組を充実させるなど、あいさつの励行に努める。

	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%以上	・入学時における新入生に対する指導を徹底するとともに、学校の決まりに関する教職員の共通理解を図る。 ・生徒指導部を中心とした指導を常日頃から実施し、生徒の規範意識を高める。 ・<u>きまりやマナーを守って学校生活を送っていることを、教職員が称賛したり、生徒相互に認め合ったりする機会を数多く設け、実践意欲を高める。</u>	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合が 96.4%で、数値目標を 6.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校の決まりに関する教職員の共通理解を図り、生徒指導部を中心とした指導を常日頃から実施し、生徒の規範意識をより高めていく。
	B3 学校は地域の小学校や高等学校との連携を図ったボランティア活動などを通して豊かな心を育てている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・特別の教科道德や学級活動、総合的な学習の時間と連携を図り、生徒の意識を向上させ、既存のボランティア活動を生徒に一般公募する。 ・学級活動や総合的な学習の時間などで、どのようなボランティア活動ができるかを考える機会を設け、実践できるようにする。 ・小・中・高校の連携やボランティア活動の様子を積極的に情報発信することで、本校の取組を広く周知することで、生徒の良さを地域に伝えていけるようにする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合が 74.2%、保護者の肯定的回答の割合が 79.2%で、生徒が 5.8 ポイント、保護者が 0.8 ポイント、数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・学級活動や道德、総合的な学習の時間を活用して、生徒のボランティアに対する意識を向上させる。 ・地区コミュニティセンターと連携しながら、積極的にボランティア活動の機会を設ける。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 生徒のアンケート結果から

- ・市内中学校平均や本校の昨年度結果と比較しても大きな差はみられなかった。
- ・A17「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」については、市内中学校平均より肯定的回答の割合が 5.6 ポイント下回り課題を残した。

2 教職員のアンケート結果から

- ・A3「粘り強く取り組んでいる」、A7「宇都宮の良さを知っている」、A9「持続可能な社会について関心を持っている」の3項目で、昨年度より肯定的回答の割合が 10 ポイント以上上昇し、日々の実践の成果が出ている。
- ・A15「協力して業務に取り組んでいる」、B1「生徒は、時と場に応じたあいさつ」については、市内中学校平均よりも肯定的回答割合が約 15 ポイント下回り、今後に課題を残した。
- ・ほとんどの調査項目において自らの教育実践を厳しく見つめ、より高きを目指している姿が見受けられる。

3 保護者のアンケート結果から

- ・A3「粘り強く取り組んでいる」においては、昨年度よりも肯定的回答割合が約 5 ポイント上昇し、A7「宇都宮の良さを知っている」においては、市内中学校平均より肯定的回答割合が約 5 ポイント上回っており、日々の実践の成果が出ている。
- ・A3、A7 以外においては、市内中学校平均や本校の昨年度結果と比較しても、ほぼ同等の結果であった。

4 地域住民のアンケート結果から

- ・調査全項目の肯定的回答の割合の平均が、約 98%に達し、非常に高い評価を得ている。また、ほとんどの調査項目において市内中学校平均を上回った。地域住民から本校の取組に対する高い評価を得たと言える。

5 今年度の重点目標から

- ・「持続可能な社会を目指し ESD を推進する」に関しては、A9「持続可能な社会について関心を持っている」において、肯定的回答の割合が、本校教職員は昨年度より約 10 ポイント上昇し、生徒・教職員共に市内中学校平均とほぼ同等の結果になり、良い傾向にあると言える。
- ・「働き甲斐のある職場づくりの推進に努める」に関しては、A15「協力して業務に取り組んでいる」において、本校教職員の肯定的回答割合が昨年度より約 4 ポイント、市内中学校平均より約 15 ポイント、A16「業務の効率化に取り組んでいる」において、肯定的回答割合が市内中学校平均より約 4 ポイント低く、次年度以降も継続的に力を入れて取り組むべき課題と言える。

6 小中一貫教育・地域学校園の取組から

- A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」において、肯定的回答の割合が、教職員・保護者・地域住民共に、市内中学校の平均とほぼ同等の結果になっている。生徒の結果のみわずかに下回っている。
- B3「地域の小学校との連携を図ったボランティア活動」において、肯定的回答の割合が、地域住民は 100.0%、教職員は 83.3%、保護者は 79.2%、生徒は 74.2%となり、立場によって捉え方に差が見られた。

7 学校関係者評価

- ・学校全体が落ち着いており、明るく、素直な生徒が多いと感じている。また、開かれた学校であると感じている。
- ・ボランティア活動に積極的で非常に素晴らしいと思う。
- ・宇都宮の良さ、SDGSへの関心の高まりなどの調査項目で、肯定的回答数が向上していることは良いことだと思う。今後の指導もよろしくお願いいたします。
- ・小中と学年が上がるにつれて不登校生徒の対応は難しくなり、目に見えた変容は難しいので、評価もしにくい面もあるのではないかと感じた。
- ・冬場の下校について、徒歩の生徒は反射板、自転車の生徒はライト点灯をしっかり行い、安全確保に努めてほしい。
- ・働き方改革の名のもと、これまで行ってきたことを取りやめる動きもみられるが、何のためにやってきたのかという本質を見極めながら進めて行くことが大切だと思う。
- ・学校と地域の連携はもっと強化していった方が良いと思う。連携強化ポイントとして地域企業の強力な専門性を有効活用が考えられる。
- ・生徒の肯定的割合が上昇している項目が複数見られ、今後も継続して上昇していけると良いと思う。
- ・教職員と市平均の比較で 10 ポイント以上下回った項目もあるが、教職員の厳しい目線での評価と思われ、教職員の真剣な関わりが強く感じられる。
- ・小中一貫教育・地域学校園の取組をより充実するよう、継続していけるよう願います。
- ・アンケート結果から、生徒・教職員・保護者・地域住民と立場により考え方・評価に違いや差が見られることがわかるので、それぞれの立場で肯定的ポイントの下降傾向にある項目の原因を分析し、重点的に改善に向けた取組が必要であることを感じた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・どの質問事項に対しても、肯定的回答の割合の経年比較や市平均との比較から見て、概ね良好の結果が出ている。今後、肯定的回答の割合を高められるように、教職員が一丸となって努力していく。
- ・学校行事や生徒会活動などで、生徒がいきいきと活動できる取組を推進していくためにも、ICT機器の効果的な活用方法を研究していく。
- ・「時と場に応じたあいさつ」を更に定着させていくために、地域の小学校とも生徒会や児童会を中心に連携を図りながら、あいさつ運動を活性化していく。
- ・質問事項の中には、立場によって評価が分かれる傾向が見受けられるものもあるので、その原因を分析し、どの立場から見ても評価に大きな開きが出ないように取り組み方を改善していく。
- ・小・中・地域との連携を強化し、地域の人材や資源を有効活用していく。